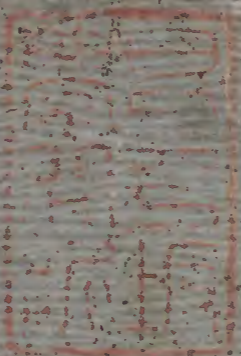


圖譜 山草部



		一七四六八	和書門
	二一七	八	
四册	六架	函號	類

195

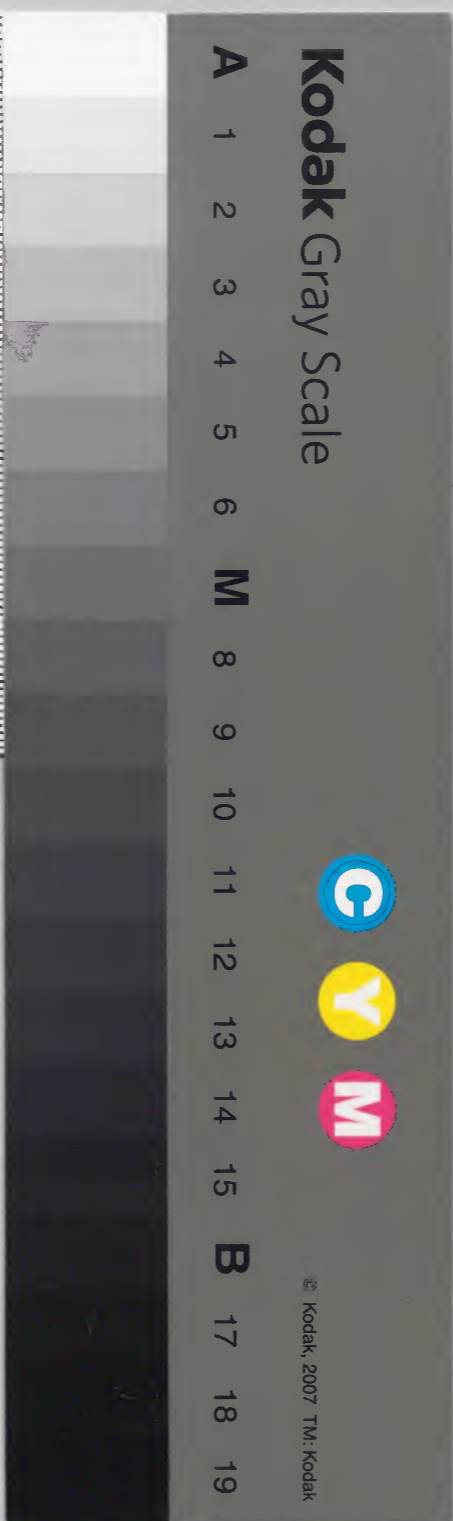
庫	文	閣	內	
二九六	函	二一七	四	和書
二架	册	八	號	類

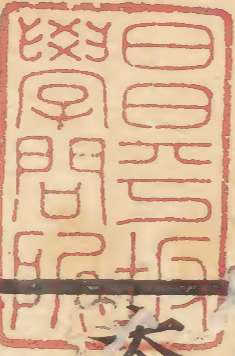
物産 一ノ四

五三

内閣文庫		
番號	和	17468
冊數	4	(1)
函號	196	195

196-195





本草圖譜敘

淺草文庫

凡動植之化育乎兩間者。不
以千百數。而殊形詭狀。洪
纖紛羅。浩如烟海。有翰墨紀
載之不能得。而曲盡者。於是
寄之於繪畫。以發其所不及。

本草圖譜序

本草圖譜一序
使人一覽了然無遺蘊。是畝
之所以不可闕也。故歷世言
本草者。自唐李勣。宋蘇頌。以
還。未嘗不為之畝。而迨明李
時珍編綱目。則蔚然集諸家
之大成。學者奉為準據。第其

畝踈謬不足觀。何也。予嘗得
綱目原刻而閱之。卷首署曰
李建元圖。則其畝固非蘄陽
之編。况輾轉摹刻。訛陋互生。
終亦失建元之舊。豈不甚可
憾也哉。吾友岩崎灌園酷嗜

赭鞭之學。又善寫生。所著有
本草畝譜若干卷。項者釐草
部一類。鋟諸梓版。謁序於予。
灌園刻意斯學。殆三十年。平
居植藥卉於庭。二千餘種。籬
笆綰錯。磁斗相接。灌園日道

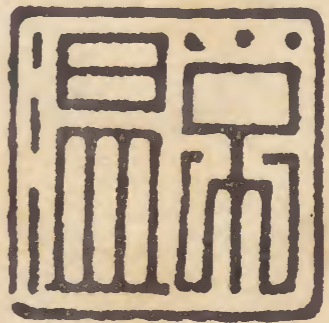
遙其間。親加培溉。循覽諦視。
以察其根莖花實之形色。句
拆榮悴之變態。超然有所得
於中。輒援毫寫之。是以精麗
詳密。分析毫芒。凡方土產殖
之同異。深阻幽崖之殊品。以

至海外絕國。賈舶所賈。纖悉羅陳。不移足而得之。凡案間其用力。可謂勤矣。夫畝之與說。所以相為用。而建元之畝。未足以羽翼其說。觀者憾焉。灌園斯編。因綱目之綿蕞。而

更致參稽。灼然如觀火。洵足以發揮幽頤。而津逮後學焉。則謂之李氏之功臣。孰為不可乎哉。予不慧。亦嘗留意斯學。與灌園相識久矣。故弗辭而序之。

文政十一年晚秋望日

奉朝請醫官喜多村直撰



鈴木清熙書



本草圖譜序

人之所愛莫愛於生。而所惡莫惡於死也。使人無憾於疾病死生之際者。舍醫何以也。醫之為道。所係甚重且切。而其施治之間。非資於藥物。則不能也。醫之於藥物。其急且必。猶將師之於卒徒。苟舍之。雖良將神醫。而但束手待其亡。且斃

耳。故戰之勝敗由卒徒之強弱。治
之功否。由藥物之精良與粗惡。豈
可不慎哉。然則為醫者之於藥物。
惟由本草之學。不可不急且重也。
上古聖神為作之經而來。莫世不
講之。至明李時珍。經目殆乎集大成。
然詳於說而略於審。且其為說。或
深妄者。不為少。或專氣味而遺

形狀。今求之風氣絕殊之東方。小大
厚薄。美惡能否。既已不同。而未能
的知為某物。而淺人妄擬而用之者。
有焉。痛者不察而施之者。有焉。學
之不講。其害人不細也。乃有若水稻
先生者出。而斯學頗明。及貝原松
崗阿部田村大田小野諸先生。繼興。
則其說益精。然猶急於說。緩於

面。或雖有畜甚。眇且拙。輾轉臨摹。花果不分。席託為猫。後學疑貳。受或滋甚。洵可惜哉。此余畫譜之所以作也。蓋形狀可見者。莫若圖象之易辨。非如性情氣味之待之語文。字而後識也。夫舜象刑。使知劓剕。極宮。禹鑄鼎。使避魑魅。罔兩。豈其遺文字。而為圖象乎。欲識斯物。固

非親目。則不得也。然萬物之多。東西之遠。榮枯異時。山海危險。豈能盡得而親目之乎。是則畜與說。亦起於不得已也。而斯二者。雖相因。亦不可偏廢。圖之於物。一聞耳。說又隔一層。故說雖極其詳。志讀之間。待命意立象。而後識。猶有疑似難辨者。而則不然。一覽瞭然。莫復煩

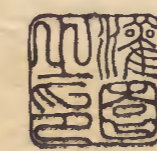
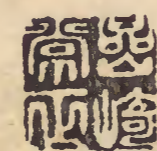
推測考覈之勞也。則圖之為貴可見矣。故畜不可以不精巧。為不精巧。何以能辨似而非者。一安在其為可貴也。世政者。徒急於射利。不察醫之。所以為醫。犬馬土苴。以視人之死生。人或責之。則曰命。曰術。盡不復以為意。何暇藥物之擇。况於畜與說乎。又况乎於畜之精詳與粗

略乎。於其急且必者。既不暇之擇。鹵莽滅裂。一委之藥肆。不復問真贋精粗。縱使一旦欲辨之。未嘗講而明。豈遽能辨之乎。於戲。疾之不起。皆果命耶。術邪。解之之獄。訟官長不親自聽之。一據姦吏之偽案而斷之。則其所是所非。皆果真是而真非耶。民豈無冤耶。洵可慨歎矣。

余蓋百學之。至嗜斯學。每取羣書。閱
係於斯者。竊敢折衷。衆說各歸其
當。搜採山野。移圃栽盆。凡二千餘
種。苗葉花實。隨時写生。乃至異
境僻地之產。其所目擊。莫不悉圖
之。如斯者二十餘年。積成若干卷。
名曰本草畝譜。其為圖。抖擻精神。
盡竭筆力。極之精巧。施之采色。自

以謂無復所憾者。試開視之。雖見
童走年。以不待費口舌。而辨某為
某物也。或使世醫者。易彼急於射
利之心。而用之於此學。資余此畝。溝
而明之。名實不差。揀擇無失。主治
適當。療病如意。則庶幾天下之人。
遂平生死乎命。可以無憾於疾病
死生之際歟。然則此畝之於世。豈小

補之云乎。而敢自質於諸老先生。賴諸老先生。推而確之。使後學無疑貳之惑耳。亦未知其果無深乎否。不敢自是以博問於世之精於精鞭者。剖劇功成。於是乎序。文政戊子冬至日。灌園岩崎常正。



凡例

一 此書從本草綱目部分。而首錄山草者。以藥品中草木最多。且先所編成者故也。若夫水火金石禽獸蟲魚等圖。未能全備。以待後日。

一 漢土圖藥品者。雖有備急本草爾雅圖三十圖。繪祕傳花鏡等。鹿略不詳。不能寫其真出。及本邦山幸野山草花彙其他見于畫帖等者。多不施采色。或雖施采色。未得真。皆不足據也。此圖譜彼此形

本草圖譜 卷之五 津園附錄

狀。及同種異品。詳悉寫生。畫為雙鈎。使精工彫刻。刷畢。又別命畫工施采。庶幾檢者不失其真。但命工施采。費用浩穰。故着色本。待購者所求耳。

一此書專於圖。而畧於說。但上提漢名。下記本邦古名。方名當今通稱。及各國各鄉形色氣味根莖花實生茂時節。欲使人易識也。

一彼此品物。可得親睹者。皆就而寫之。至其如蕃物。甘松鬱金香肉豆蔻丁香等者。以宇田川榕菴所藏。

西洋物。印忙圖補之。或彼此雖俱有其種類。少而和蘭則多者。急加載之。各記其書名蕃名。又雖本邦所產。其圖成於他人者。傍記其所出處。

一此書國字傍注者。欲雖山樵漁夫。急使其咄嗟易辨也。但恐文詞拙陋。有欲明反暗。欲正反訛者。大方君子其幸正之。

本草圖譜 卷之五 凡例 二 灌園附錄

本草圖譜 卷之五 目錄

本草圖譜卷之五目錄

山草類 一之上

甘草 福州種 あまごこ	二	同 南京種	同	佛掌參 かのあげま	七	一種 紫花之物	八
黃耆 やしろま	三	木黃耆 ふくろま	四	同 一年之物	六	一種 紫花之物	八
一種 紫花之物		人參 御種	五	同 二年之物	六	一種 紫花之物	八
一種 紫花之物		土參 うのめん	八	一種 實半黒なる物		一種 紫花之物	八

本草圖譜 卷之五 目錄

本草綱目 卷之五 時珍 一

沙參	沙參	九	一種	白花之物
細葉沙參	尾州産	十	一種	ひめ沙參
地參	尾州産	十一	一種	多うら沙參
羊乳根	唐名	十二	一種	薺花
杏葉沙參	唐名	十四	一種	白花之物
桔梗	淡黃花之物	十五	一種	白花之物
一種	淡黃花之物		一種	紫白紋

一種	系き	十六	一種	漢種	十七
偏精	たるこゆり		一種	南部産	十八
萎蕤	矮生之物	十九	一種	紫斑	
一種	矮生之物		一種	荷苞様	十九
鹿藥	ゆき	廿	一種	知母	廿一
肉蓯蓉	きむらたけ	廿二	一種	列當	
一種	武州御嶽山之産		一種	蠻産	廿三
赤箭天麻	ぬまびら	廿四	一種	綠莖之物	

本草綱目 卷之五 目錄 二 藺園 園 歲

本草綱目 卷之五 甘草



あまのこ
福州種と葉小く尖り根蔓と
あり接行し節より芽を生ず
色淡黄而て味甘

甘草

春宿根より
生ず葉小く
糙粒あり茎
高さ一二尺
根葉を經り
花実あり

あまのこ
和名

免きよ
南京種ハ直根ありて中々
皮深黄色ありて味甘



本草綱目 卷之五 甘草

黄耆

和名

綿耆者八藝州廣崎より物つとりん茎
直多と茎を塊と仰て乾ゆ七毛茸あり
莖より二尺八秋花あり形胡枝子花小
似し然れども色從て莖を踏ん角中空虚又
して漸小子あり根大なる小児の癖食地中
莖白色を折ると其柔軟を以相高めて味甘



本草綱目 卷之五 時 三



駿州富士山中あり蔓草の如く
根白色ゆへ硬く味淡く後苦の
花と用さるる種一様紫花は
物あり苗根より小く二種あり
木黄者ゆへ下品なり

一種紫花の物



本草綱目

卷之五

木黄者

四

藿園閣藏

本草綱目 卷之五 時珍 御種 人參

人參

御種 人參



本草綱目 卷之五 人參 御種

本草綱目 卷之五十四 人參

一年の物



元文三年朝鮮より人參の種有り
下野都賀郡を以て實を極て物生
一莖三葉とる一二年の二極を
生一各五葉つく三四年の
三極五葉とあり中心小白花と
実扁く生ハ綠色熟まれば紅色不
ある中ハ仁二三箇あり根年と経て
長大るもの五極七極ふなり花
穂中も枝と生る

二年の物



本草綱目 卷之五十四 人參

本草綱目 卷之五 時 七 濟園 藏

一種実半黒あるもの



一種



紫花のもの

土参 秘傳花鏡

芳野のもの



今ハ芳野ゆへハ採つて紀州境を傳ふるもの
茎葉竹節ものと同しな根なり

本草綱目 卷之五 土参 八 藺園 藏

本草圖譜 卷之五 時 六

沙参 あきん

法里が根あきん

此も 数種あり 處々山野陽地み
 多し嫩葉ハ圓して馬蹄の如
 きさ二三尺指の葉ハ狭長く
 微毛茸あり葉と柄ハ白く
 出づ葉ハ狭く花小淡紫白
 等の數種あり



一種

白花れもの



本草圖譜 卷之五 沙参 九 權園 閣藏

本草綱目 卷之五 沙参 九

細葉沙参

本草

野生 花淡紫色



ひあ 沙参

一種 尾州産



本草綱目 卷之五 沙参 十

本草綱目 卷之五 沙参 地参 十一 灌園 園藏

尤ま沙ま参ま

又大和やまと尤ま参まをりく葉厚く光澤あり
六月花を開く深碧色變生を産す



地ち参ま
救荒本草



葉潤く鋸齒あり三葉
對生一花大ゆて淡紫色
形山小菜形ふ似に似に

本草綱目 卷之五 沙参 地参 十一 灌園 園藏

本草綱目 卷之五 附錄 羊乳根 沙参



多うらく沙参

華を杏小似て五生一花
五瓣紫碧色甚細く切とう



羊乳根 附録 法つらん

山陰に生む春宿根より
蔓と生し茎根とも小
切ハ白汁の形の形地
参小似く紫黒とあり

一種系野小生さりの苗葉
皆小ありて毛茸あり

本草綱目 卷之五 羊乳根 十三 確園編藏

本草綱目 卷之五 杏葉沙參 唐沙參 俗和

杏葉沙參 本草 救荒

唐沙參 俗和

根ハ桔梗の如ク肉實モ
莖ハ四五尺花ハ沙參
似テ鮮紫色大ナリ



一種白花の物



本草綱目 卷之五 杏葉沙參 十四 灌園綱目

本草綱目 卷之五 桔梗

桔梗

ありのきき 鈔

一種白花の物



ありのきき 鈔

今通くきき
といふ数種あり
花の碧色あり
白を淡紫の
物あり又此
種のもの
を辨あひ
干辨あひ
桔梗等あり
又此桔梗
あり花は
うろこれ
淡紅別あり



桔梗

本草綱目 卷之五 桔梗 廿五 權園 樹藏

本草綱目 卷之五 桔梗 一五 文政

一種 紫白あり



紋桔梗の一種 淡紅の物

一種 糸ききり



又ひききりともいふ小草なり花紫瑠璃色花
葉の形ふらふて桔梗の屬とを根細くして自らさす

本草綱目 卷之五 桔梗 廿六 文政

本草綱目卷之五十一
 雜考
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



黄精

享保年中漢程濟著
 根大者脚葉五生一稍葉
 對生花和春同綠
 實大豆大熟則黑
 此陳藏器說此正精也



本草綱目卷之五十一
 雜考
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

本草綱目卷之五十一 一七 洲國際

偏精

あつた
ゆき



山中陰地いんちに生るなま葉は頗おほく粉緑色こなり小
して五生ごせいを花実前倫はなみと同おな一

一種

南部の産える苗長大四五尺葉は
百令ひゃくに似にく大なる根も肥大ふせなり



本草綱目卷之五十一 一八 洲國際

偏精

本草綱目 卷之五 鹿藿 二十 藿藿 藿藿

鹿藿 附録



ゆきごころけり

深山には鹿藿の根 鹿藿の根は 小根を軟くし 苗小なるハ 数寸大なるを二疋と云ふ 梢は花攢族を白根も 藿藿に似く黄白色実 黒色黄精子の如く又 紅色のありあり

一様發生の物



一様倍小荷苞様の藿藿 別の小なる二葉を生して白 花を包む二花連り筒く

本草綱目 卷之五 鹿藿 二十 藿藿 藿藿



知母

藤類のもの官
 園ふあり夏月
 茎を抽て二三
 三四尺六瓣の小
 紫花と二天く後
 莢と結ぶ中お小
 黒子あり

たのまぢ



本草綱目
 卷之五
 十一
 權園閣藏

本草綱目 卷之五 肉苁蓉

肉苁蓉 肉くさうとう



きんせうたけ 野

駿州富士及野州日光山あり
樹根の處へ生る長一尺余
短きの六七寸鱗甲あり梢
穂あり黄紫の花を開く形
天麻の如く根塊あり生て
七八寸あるとき採べし長れハ
滋虚不あり



肉苁蓉

卷之五

肉苁蓉

本草綱目 卷之五

本草圖譜 卷之五 列當

列當 リョウドウ 尤まうつが



一種 武洲御嶽山中に生るもの
花淡黄色なり

海邊の芝地を生る尾州の八箇所
根を掘て生るものあり肉莖蓉より
瘡小めて鱗甲粗

一根三莖を生る花淡紫色



本草圖譜 卷之五 列當 三權園閣藏



阿蘭物印忙の園ふ
桃金娘をよみよの
根より生るものあり
これ又列當の属あり

シスチユスレトナイトセイ。フリヌ蘭和

列當

本草綱目 卷之五 赤箭天麻 諸國山野 四月生 今年生 明年 生 根 葉 長 寸 許 根 葉 長 寸 許 根 葉 長 寸 許

赤箭天麻

ぬすむとあ



諸國山野の四月生
今年生 明年 生
根 葉 長 寸 許
根 葉 長 寸 許
根 葉 長 寸 許

一種 緑 茎 ありて
白 花 ありて
これと 説 又 雷
敷 の 花 の 御 風
乾 葉 元 来 あり
御 風 草 の 葉 背
白 と ありて 穂
當 ありて



本草綱目

卷之五

赤箭天麻

廿四 藺園閣藏

白朮 びやくま

漢種のものあり葉五尖ありて厚く硬く光澤あり花紅色黒き葉より莖ささ三尺あり根培養すれハ甚肥大よありたり肉黄白色軟め七上白かり



白朮



一將細葉の物尾州より花紅色根濃緑の物と同



一種和名天目白木といふ
 武州川越より出るといふ葉ハ和
 産の蒼木ニ似て五尖或ハ尖
 中て色薄く軟なり浮行
 の葉より凋大根甚肥大て
 肉白色蒼木より軟なり

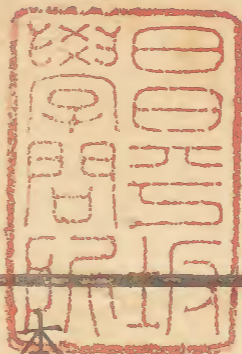




蒼朮

葉種あり葉又よく旋覆葉小似て硬く
多と抱て生け花白色形とひらと同一根連
珠の如く肉淡黄色あれを折ハ脂膏多
上品なり





とけら延喜式

本草圖譜卷之五 終

和産あり葉五尖或ハ三尖
ありあり葉狭凋或ハ毛
濃深の別あり皆花ハ白色

椿齊

岡田清福模寫



本草圖譜
卷之五
終

